

中央アジア文化交流ミッション第二弾 トルクメニスタンへ『乙嫁語り』の漫画家・森薫氏も同行

国際交流基金（ジャパンファウンデーション）は、4月19日から24日まで、中央アジア文化交流ミッション第二弾として、トルクメニスタンへ、文化交流ミッションメンバー6名および人気漫画『乙嫁語り』作者の森薫氏を派遣します。

国際交流基金では、2015年10月の安倍総理による中央アジア諸国歴訪を受け、中央アジアを「重点地域」の一つと位置づけてこの地域との交流深化に力を注ぎ、幅広い分野の文化交流事業を企画・実施しています。その一環として、様々な分野の専門家・有識者で構成される文化交流使節団（ミッション）の第一弾を、2016年8月2日から5日にかけてウズベキスタンに派遣しました。今般、その第二弾としてミッションメンバー6名、及び同行者として、19世紀半ばの中央アジア地域を舞台とした漫画『乙嫁語り』の作者である森薫氏をトルクメニスタンに派遣します。

今年4月22日は、1992年に日本とトルクメニスタンが外交関係を樹立してから25周年の記念日にあたり、本ミッションの訪問を機に幾つかのイベントが予定されています。また、近年は現地で日本語教育への関心が高まっていることから、首都アシガバット市内で日本語教育が行われている大学等も訪問し、今後、日本とトルクメニスタンの関係をさらに深め発展させていくにはどのような交流が効果的かを調査・検討します。

記

中央アジア文化交流ミッション第二弾 実施概要

- 【派遣国】 トルクメニスタン
【スケジュール】 2017年4月19日～24日（一部メンバーは23日まで）
【メンバー】（写真左から、敬称略、五十音順）
安藤 裕康（国際交流基金理事長）
河東 哲夫（Japan and World Trends 代表）
コシノ ジュンコ（デザイナー）
小松 久男（東京大学名誉教授、東京外国語大学特別教授）
鳶 信彦（ジャーナリスト）
西原 鈴子（特定非営利活動法人日本語教育研究所理事）



写真：高木あつ子

写真：相川健一

※文化ミッションメンバーである中山恭子・参議院議員及び矢内廣・びあ(株)代表取締役社長は、業務都合につき不参加。

- 【同行者】 森 薫（漫画家）
【主な訪問先】（変更の可能性あります）

国立中央トルクメニスタン博物館、国立トルクメニスタン美術アカデミー、科学アカデミー言語文学研究所、歴史文化記念物保護研究修復局、オグス・ハン記念工科大学、アザディ名称世界言語大学、国際人文開発大学等

以上

主催者・本事業に関するお問い合わせ： 国際交流基金 企画部事業戦略課（担当：日下部、山崎、徳増）

Tel: 03-5369-6058

取材に関するお問い合わせ： コミュニケーションセンター（担当：二村、諏佐）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044 / E-mail: press@jpf.go.jp

<漫画家・森薫氏について>

森薫氏は、19世紀半ばの中央アジア及びカスピ海周辺地域を舞台として、厳しい自然の中を生きる人々の生活と文化に焦点を当てた漫画『乙嫁語り』（おとよめがたり）を2008年10月より『ハルタ』（KADOKAWA）に連載開始しました。

『乙嫁語り』は2011年にマンガ大賞2011の2位受賞、2012年に第39回アングレーム国際マンガ祭世代間賞、2013年にマンガ大賞2013の2位受賞、2014年にマンガ大賞2014で大賞を受賞しました。2014年7月には、『乙嫁語り』が中央アジアを舞台にしている縁で、外務省の「中央アジア+日本」対話10周年を記念したイメージキャラクターを手掛け、交流促進に貢献しています。

森氏には、今般、渡航経験のないトルクメニスタンを訪問いただき、現地で様々な交流をしていただく予定です。



<文化交流使節団「中央アジア文化交流ミッション」について>

中央アジアは、天然資源が豊富で、ユーラシア大陸の中心に位置するイスラム圏として地政学的な重要性も非常に高く、今世界が注目している地域です。世論調査の結果では中央アジアの人々の日本に対する好感度は高く、また日本でもロマン溢れるシルクロードの国々に憧れを抱く人が多くいると言われる一方で、お互いについての具体的な知識や情報は少ないのが現状です。こうした状況を踏まえ、国際交流基金では、集中的に多岐にわたる文化交流事業を実施することを通じ、相手に対する漠然とした好印象を、偏りない知識に裏付けされた確かな相互理解に繋げ、また共通の課題に共同で取り組むことで価値観の共有を確忍し合い、「遠くて遠い国々」を「遠くて近い国々」にしていくことを目指します。